

学校名： たっこちよりつたっこちゅうがっこう 田子町立田子中学校
 校長名： 小泉一純
 所在地： 青森県三戸郡田子町大字田子字風張
 27番地の1
 電話番号： 0179-32-3249

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

田子町は青森県の南に位置し、秋田県、岩手県に隣接する山あいの町である。青森県無形文化財に指定されている田子神楽は400年前から伝わるもので、テンポが速く舞型も複雑である。アクロバティックな動きもあり、盆を使った舞では曲芸さながらの技術を要する。見ている側は興味深い、踊りそのものの難易度が高く、後継者不足が課題となっている。元々男子の舞であったが、現在は男子で踊る若者は見られず、少人数の女子による舞が続けられている。町では、30年程前から神楽後継者養成講座を月2回のペースで開催している。本年度は、本校の3学年5名、2学年4名、1学年2名の女子生徒が講座を受講している。同町内の県立田子高校では、外部指導者の指導を受けて、郷土芸能部の活躍がめざましいこともあり、田子中学校としても、より地域に根付いた活動をしていく重要性を感じている。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

| | 1年 | 2年 | 3年 | 特別支援学級 | 計 | |
|-----|----|----|----|--------|---|-----|
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 1 | 7 | |
| 生徒数 | 男 | 27 | 37 | 33 | 2 | 99 |
| | 女 | 29 | 26 | 29 | 0 | 84 |
| | 計 | 56 | 63 | 62 | 2 | 183 |

教員数 16名(保健体育科 2名)

ダンスの授業の状況

領域;ダンス

領域の内容;フォークダンス(伝承されてきた日本の「民踊」)

| | 1年 | 2年 | 3年 | 特別支援学級 | 計 | |
|---------|----|----|----|--------|----|----|
| 配当時間数 | 8 | 10 | 10 | 0 | 28 | |
| 担当教員数 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | |
| (外部指導者) | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | |
| 生徒数 | 男 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 女 | 29 | 26 | 29 | 0 | 84 |
| | 計 | 29 | 26 | 29 | 0 | 84 |

II 授業事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

今回取り組んだ「ダンス」の内容は、1年生から3年生までフォークダンス(日本の民踊)として、地域に伝承されてきた田子町・無形文化財指定の伝統芸能「田子神楽」を取り上げた。

その中でも、2、3年生は振りうつしが主になるので、生徒の興味が持続するか懸念していた。最初は自分たちには、やれるわけがないと思ってようだが、外部指導者とのTT(チームティーチング)の授業が進むうちに、舞扇や、舞傘の扱いが慣れていき、また神楽経験者の生徒が率先して踊ってくれたことで自信を持っていく様子がみえた。

1年生は、日本舞踊とマスゲームをマッチングさせた創作舞踊の振りうつしと鑑賞が主である。生徒は、はじめての日本の舞踊にとまどいを見せるかと思われたが、授業では個々の動きから集団の美しさを追求し、協力して「風」と「波」をつくりあげていった。

授業を通しての生徒の様子は、はじめは消極的な姿勢であったが、終わりには、やって良かったと感じたようであり、本格的に「田子神楽」に挑戦したい気持ちを持った生徒も多数いたので、来年度以降もぜひ継続していきたい。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

外部指導者との連携を通して、生徒が地域の伝統文化の伝承に興味を持ち、仲間とかかわりながら主体的に取り組むダンス学習の進め方。

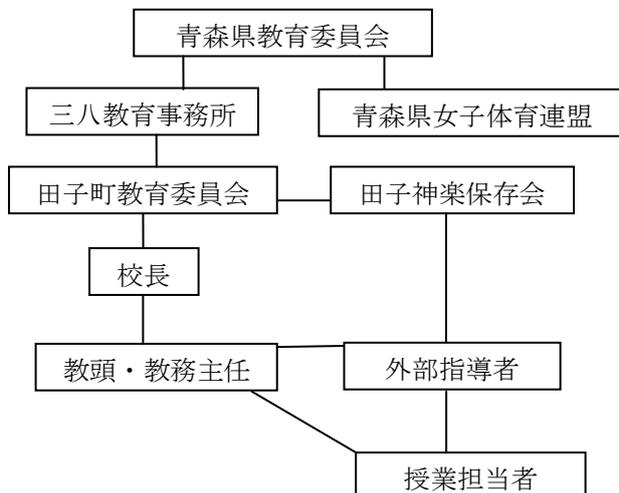
(2) 研究テーマ設定のねらい

「田子神楽」は、町の神楽講座で受講している生徒数名が、毎年文化祭のステージ発表で、華やかな衣装を身につけて踊る特別なものであった。

そこで、このすばらしい伝統芸能である「田子神楽」を生徒に経験させてやりたいと思ったことと、現在、後継者が不足してきているということで、平成24年度からのダンス必修化にともない、授業で実践することにより、一人でも多くの生徒に「田子神楽」の良さや伝統を守る意識付けができればと思い、研究テーマとして設定した。

しかし、いきなり「田子神楽」を学ぶことは、大変困難であるということから、本事業では、「田子神楽保存会」の協力を得て、1学年には「田子神楽」より簡単なリズムでマスゲーム的な要素の含まれた日本の舞踊を指導し、2、3学年には田子神楽の内容を簡単に短くした「田子神楽」の「切り番楽」を指導した。

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

| | |
|----|---|
| 平成 | ●9月下旬より10時間の単元計画を組んだ。文化祭で踊ることを最終的な発表の場に設定した。 |
| 成 | ●6月下旬、外部指導者と顔合わせをし、「田子神楽」をダンス授業に取り入れることの話し合いをした。 |
| 22 | ●7月中旬、田子神楽保存会に打診する。 ※「田子神楽」をアレンジすることは避けることの指導を受けた。(文化の正しい継承のため) |
| 年 | ●8月下旬、外部指導者と、授業の進め方等の打ち合わせをした。 |
| 度 | 授業開始 ●9月下旬 オリエンテーション 「田子神楽」について 扇の扱い方 礼儀作法 ●10月 1, 2週 2～6時間目 学習1 扇舞 ●10月 3週 7～9時間目 学習2 傘舞 ●10月 4週 10時間目 発表 鑑賞 |

2 授業事例

(1) 扇舞

① 目的

「田子神楽」の由来を知り、伝統芸能そのものや使用する扇に対する畏敬の念を持たせて取り組ませる。小グループ単位の学習により、楽しみながら、友達同士のかかわりの中で、「田子神楽」の基本である番楽を曲に合わせて踊れるようになる。

② 具体的な指導方法

外部指導者と担当教諭がTTで指導し、田子神楽の内容を簡単に短くした「切り番楽」という5分程度の内容のものを、

生徒だけで踊れるように目標を定め、学習を進めた。1時間目には扇の扱い方や礼儀指導を行った。2, 3時間目には外部指導者を見て同じように動けるように、生徒は個々で振りうつしを行った。ただし、覚えるにはかなりの個人差があり、担当教諭は遅れがちな生徒に常に助言し、外部指導者に不明瞭な動きをその都度確認するなど、とにかく動きが難しいため、生徒があきらめてしまわないよう気をつけて指導した。4, 5時間目には神楽講座受講生に、各5人程度の生徒を受け持たせ小グループごとの活動とした。6時間目にはその小グループで互いに発表と鑑賞をした。

③ 成果・課題

今回、地域連携指導実践校として、研究したことで、「田子神楽」という古来から伝わる伝統芸能の最初の部分を授業を通じて伝えることができた。これは、今までなかったことであり、「田子神楽」の継承を推進していくことにつながったと思われる。実際に、この授業の後、3名の3年生は神楽講座に参加しており、2年生数名からは来年度から講座に参加したいと、町役場に申し込みをしたようである。本研究では、地域に根付いた指導者をお願いしたことから、生徒が小学校の頃から指導者との面識があり、おかげで、生徒も素直に指導を受け、学習活動が真剣な中にも、明るい雰囲気で行進することができた。

課題は、外部指導者との連携は取りやすいが、田子神楽保存会では、本来の踊りを大切にしていかなければならないという使命があるために、学校の授業で教える神楽の内容の制約を受けることがあった。

これからも田子神楽保存会と連携を図

り、指導内容等について検討していくことが必要である。

来年度以降も、ぜひ外部指導者を招き「田子神楽」の授業を展開していくことで、田子町や保存会との関係をさらに深めていきたい。このことが、生徒自ら田子町の伝統芸能を守る意識の向上につながってくれればと思う。

生徒へのアンケート結果（2年生 24名）

| 田子神楽を踊る前のイメージ（複数回答可） | |
|----------------------|-----|
| かっこいい | 20名 |
| 難しそう | 15名 |
| 踊ってみたい | 10名 |
| テンポが速い | 5名 |
| 簡単そう | 2名 |
| 自分だけ速くなりそう（経験者） | 2名 |
| やりたくない | 2名 |

| 田子神楽の授業を終えての感想（複数回答可） | |
|-----------------------|-----|
| 難しかったけど楽しかった | 15名 |
| 達成感があった | 7名 |
| 最後まで踊れて良かった | 5名 |
| 神楽を踊れてうれしかった | 3名 |
| 続けていきたい（経験者） | 3名 |
| 疲れたからやりたくない | 1名 |

生徒の感想より（抜粋）

重そうな衣装を着て、動いてばかりいるのを見て、正直やりたくないと考えていた。いざ、実際にやってみると、思っていた以上に体力をつかい、そして大変難しいことがわかった。授業では、実践期間が短かったが、最後みんなの前で発表することができ、達成感があった。そして、田子の伝統的な文化を知る事ができて、講師の先生や、教えてくれた友達に感謝している。 2年A組女子

3 今後の展望

地域と連携して、指導者に協力をあおいで授業を展開するのは、より専門的な知識を授業に取り入れることもできるため有効だと考える。

しかし、外部指導者のほとんどの方が職業をもっており、継続してかかわってもらうことはかなり困難がある。そのため教師自身がより高い専門性を身に付けていかなければならない。



外部指導者による振りうつし



跳躍した後すぐこの姿勢



グループ学習で疑問点を解消



リーダーによる傘舞の模範



でんぐり返し後にごあいさつ



1年生も扇を使って集団の美を追求



和服を着ているイメージでしとやかに